

平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	実践的英語コミュニケーション能力をもつ理系グローバル人材育成のための能動的学修法の積極的な導入とカリキュラムの構築	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	総合工学系研究科、理学部、工学部、農学部、繊維学部、全学教育機構(英語教育)	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	平林公男 (繊維学部応用生物学)	
取組の目標	学部高学年における能動学習習慣の定着と、学習意欲の維持方法に関する取り組み	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1. e-Learning を授業に組み込み、単位を実質化し、教育の質を保証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルク NetAcademy を授業に組み込み“1 単位=45 時間”を徹底。毎週、授業 90 分+自学 180 分 (e-Learning)、毎週、リスニングとリーディングの宿題 → 次週に共通小テスト → TA が採点 → 次週に返す。毎週、全員の NetAcademy の学習状況をモニターし、教員にフィードバック <p>2. モチベーションの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーキング・ライティング能力の養成講座(高学年向けに通年で開講) ・TOEIC-S&W テストの実施による発信力修得支援(英語サロン：毎週実施) ・学部長表彰(最高得点者、努力者：700 以上で最高の伸び) ・海外留学への道を開く：TOEIC スコアで候補者を掘り起こし、エンカレッジし、TOEFL の受験も支援。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	<p>a. 達成できた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b. おおよそ達成できた</p> <p>c. 半ば達成できた</p> <p>d. おおよそ達成できなかった</p> <p>e. 達成できなかった</p>	<p>工学部は H25 年度から、農学部は H26 年度から、理学部は本年度から、1 年次全学生に TOEIC 試験を課し、理系 4 学部全学生が TOEIC 試験を受験する体制が完成した。これに引き続き、他文系学部(教育学部英語科、経済学部全 1 年生)の受験も本年度から実施され、信州大学全体への拡大・浸透が図られつつある(信大全キャンパスで H27 年生協扱い実績のみで、TOEIC-IP+(<u>学生が主体的に受験する</u>)公開試験の受験者数はのべ 3589 + 800 = 4389 名/年、H26 年は 2446 + 538 = 2984 名/年(1.5 倍増)；<u>公開試験受験者数も 1.5 倍増</u>)。</p> <p>(今後の展望) 昨年度より、理工系 4 学部に加えて、全学教育機構に正式メンバーとして加わってもらい、総合工学系研究科も連携して、プログラムのスムーズな運用、さらなる定着、全学的な取り組みへと進展させてきた。大学全体で取り組むシステムとして、今後はその準備を行う。</p>